

## 教員活動状況報告書

提出日：令和 4 年 3 月 4 日  
 所 属： 獣医 学部 獣医 学科  
 氏 名： 金井 詠一 職位： 講師  
 役 職：

### I ティーチング・ポートフォリオ

#### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

獣医学科臨床系科目の教育活動・研究活動を行っている。主たる教育活動は小動物腫瘍学、小動物外科学、獣医放射線学を担当している。現在、卒業論文については自身の研究室移動に伴って、獣医放射線学研究室、小動物外科学研究室の学生を指導している。課外活動としては、準硬式野球部の顧問である。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医外科学	獣医学科	必	4	140
獣医放射線学	獣医学科	必	2	140
小動物獣医総合臨床	獣医学科	必	5	140
総合獣医学	獣医学科	必	6	140
先端獣医療	獣医学科	選	6	10
獣医外科学実習	獣医学科	必	5	140
獣医放射線学実習	獣医学科	必	5	140
小動物臨床実習	獣医学科	必	5	140
小動物病院実習	獣医学科	選	6	10
卒業論文	獣医学科	必	5, 6	6
獣医学特論	獣医学科	必	4, 5, 6	9

#### 2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

学生には自らの知識や技術で対価を貰うプロフェッショナル（国家資格有資格者）としての自覚を芽生えさせ、社会のニーズに合った知識や技術を提供できるような人材を育成したい。プロフェッショナルとして必要な知識や技術を主体的に常にアップデートしていく必要がある。現代の情報社会では最新の情報をすぐに大量に得ることができる。しかし、それらの情報を個人的にインプットのみでは、正確性や整理整頓に限界がある。大量の情報を正確かつ効率良く得るためには、仲間（チーム）と情報共有してディスカッションしていく必要がある。そのためには、自身の得た知識や技術を整理し、他人に正確に伝えられる「人に

モノを伝える力」が必要となる。「人にモノを伝えることのできる学生」は自ずとインプットできるようになると考えている。

### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

上記の理念を実現するために所属校では、学生が「獣医学に対する飽くなき探究心を持ち自ら学ぶ」、「チームワークや pay forward を大切にする」、「人にモノを伝える力」という方針で教育している。

#### 「獣医学に対する飽くなき探究心を持ち自ら学ぶ」

- ただの暗記ではなく、今までの知識を基に考えて導き出すような思考回路を身につける。
- 卒論指導学生には、外部機関にもお世話になり、獣医学のみならず様々な視点から物事にアプローチできるようにしている。
- 病院実習においては、まず診断スキルを身に付けてもらうようにしている。

#### 「チームワークや pay forward を大切にする」

- 卒業論文や研究チームによっては勉強会や論文ゼミを行って、メンター制度を導入している。

#### 「人にモノを伝える力」

- 論文ゼミや研究準備段階でプレゼンテーションしてもらっている。
- 外部の人との交流を持ち、幅広い業種の方と接点を持つことで、多角的な考え方を身につけるようにしている。

#### アクティブラーニングについての取組

自主的な論文ゼミを行っている。また、興味のあるテーマを決めて2週間に1回、学生主体の勉強会を行っている。

#### ICTの教育への活用

上記の資料や録画動画をクラウドで保管、共有している。

### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

②学生の理解度の把握（B）

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (A)

⑤双方向授業への工夫 (B)

講義では暗記ではなく、理解させることを心がけている。学生の理解度を把握する手段は、座学では授業評価と定期試験のみであった。実習は、本年度においてはコロナ禍の影響で主に少人数とのやり取りであったため、理解度の把握やコミュニケーションがしやすく、概ね良好だったと感じている。また講義後のアンケートでは狙い通りの学習効果や学習意欲を得られた反面、提出物や発表が煩雑であり効率かもを求める意見もみられた。学生側のカメラをオフにしたオンラインでは双方向のコンタクトに限界がある。自学自習や双方向については卒論指導対象者については実施できている。対象が大人数になると薄れてくる。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。(V 学科, M 学科の教員の方のみ記載してください。)

総合獣医学では、過去 3 年の試験問題の傾向を把握し、臨床現場に則した臨床的思考に基づく講義を行った。特定の疾患に対して「なぜ？」その検査や治療が行われたかを理解する講義を行った。

## 5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

自身が授業評価で直接コメントを貰うことは少なかったが、自身が担当する科目では教員によって両極端な評価がなされている。それぞれの先生の講義方法を把握し、良い点を取り入れるようにしている。

② ①の結果はどうでしたか。

授業評価では明らかな効果はみられなかった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

リアルタイムアンケートを駆使し、双方向の講義に取り組んでいく。

## 6. 学生の学修成果 (分量の目安：4～7行 (160字～280字))

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

卒業論文指導者との症例検討会や輪読会を行っている。自ら調べて、アウトプットする力を養っている。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価  
卒業論文指導学生が大学院へと進み、海外留学をする予定である。

**7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）**（分量の目安：1～2行（40字～80字））  
診療業務とかぶらないときは極力参加している。オンラインの録画配信はとても助かる。

**8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）**

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。

短期的な目標

ポストコロナへの対応を考えていく。デジタル化が加速したが、一方でアナログの良いところを見直す機会となった。両者を融合し、教育効果の高いコンテンツを生み出していく。所属研究室を移動して業務内容が移行中なので、ミスのないよう心がける。

長期的な目標

外部機関との研究を通じ、様々な分野で活躍できる獣医師を育てていく。

**9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ**

- シラバス
- FD 研修
- 授業評価、メールのやりとり

●FD 研修事後課題（ピアレビューによるブラッシュアップ）の実施

有・無

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡